

令和 5 年度東大阪市地域研究助成金事業
研究成果の今後の活用について

研究テーマ	日本語指導支援員による日本語能力判定（DLA 等のアセスメント）をもとにした日本語指導の在り方
担当部署	学校教育部 人権教育室

研究概要	<p>1：日本語教育従事者にDLA等のアセスメントの研修を行う。</p> <p>2：DLAを用いて日本語指導が必要な児童生徒の日本語能力を判定する。</p> <p>3：日本語指導が必要な児童生徒に対する効果的な指導（活動）案を協議し、教職員が実施し、報告会で共有する。</p> <p>※DLAとは、Dialogic Language Assessment の略称で、文部科学省が作成した対話型アセスメントのことである。筆記試験では測れない多様な背景を持つ児童生徒の学習言語能力を対話を通して測る支援付きの評価法で、テスター間で判定に大きな差がでないようにテスターにトレーニングが必要。</p>
研究成果	<p>1：判定をふまえ市内の日本語指導体制の在り方を検証し、次年度以降の学校体制づくりにつなげることができた。</p> <p>2：対象児童生徒に応じた多様な指導案を作成し、指導のモデルケースとして市内小中学校に周知・共有するための資料となった。</p> <p>3：各研究者が所属する教育機関等の機関誌に投稿し、東大阪市の教育現場の試みを伝えることができた。</p> <p>4：研究を通じ、各研究者及び関係者と市教育委員会、学校が連携した取組みを進めるためのネットワークを構築することができた。</p>
今後の活用	<p>1：完成した報告書を市立学校に発信し、研修等で周知・共有することで、各校の更なる日本語指導体制の充実につなげる。</p> <p>2：各研究者が所属する教育機関等との関係者のネットワークを更に広げ、日本語教育従事者に日本語指導が必要な児童生徒への日本語指導支援員として協力してもらい、子どもたちへのより効果的な支援内容を検討していく。</p>